

安芸市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）ver2（以下（計画））の事後評価・分析について

二酸化炭素排出量の要因別で見たところ、ガソリン、A 重油、LPG が計画終期の令和 6 年度より前の令和 5 年度時点で低減目標（努力目標）をクリアしている。

- ・ガソリン使用量減の主な要因として市外や県外出張などの長距離走行に使用される車両に PHEV などを導入したことなどが主なものと思われる。

一方で灯油、軽油、電気使用量が低減目標（努力目標）をクリアできていない。

- ・灯油については主に使用されているのが、元氣風呂や火葬場であり施設を運営する上で使用量を減らせないことが要因である（ただし、元氣風呂は令和 7 年 10 月 1 日より休館予定）。

- ・軽油については主に使用されている元氣バスと一般廃棄物最終処分場のパッカー車でそれぞれ使用量が増えていることが主な要因となっている。平成 30 年度と令和 5 年度の平均気温、最高気温を比較したところ、令和 5 年度は 9、10 月になっても気温が高かったことで冷房の使用期間が長引いたことなどが主な要因と思われる。

- ・二酸化炭素排出量の約 8 割を占める電気については市役所庁舎や統合中学校などの供用開始などもあり、それまでの施設に比べ規模の拡大や集約化により使用量が増となっている。

本計画で低減目標をクリアできなかった 3 項目について、灯油や軽油などについては施設の閉鎖や車両の買い替えなど以外で使用量の削減は困難であるものの電気使用量については計画の第 3 章にある具体的な取り組みなどを各職場に啓発することで少しずつでも減らしていくことが重要であると考えます。